

G M栽培計画が発表された2004年10月1日以降、いろいろなメディアがわたしの農場に訪れることになった。

あるメディアはコマースヤルを流さず、集金活動に法的な正当性を主張し、受信料金の支払いをしない一般ピープルに訴訟を起こす権利を認められた放送会社、早い話NHKは全国津々浦々に放送網や取材支局を持つている。北海道経済の中心である札幌にNHKがあるのは理解できても、車で1時間ほど東の空知経済の中心である人口9万人の岩見沢にも、その拠点があることには正直、驚いた。

NHKが多くのメディアと同じく、国民に真実を伝える使命に燃え、正しくパイオについて道民に教授しなければならぬと勘違いし、農場にアポなしでやって来る非常識度は一般社会で受け入れられると思っているのだから、癖が悪いと言う表現を超越しているのかもしれない。そしてその対応にも堪忍袋の緒が切れる状況になったのだが……。

今すぐ引き返せ!

大豆の収穫の準備に忙しい10月3日、近所に住む白川敏文さんから電話があり「農場の上でヘリが飛んでいるよ」と連絡が入った。その時は

倉庫の中にいて、どこかの空撮だろうと、いぶかる自分に触発されて重い腰を持ち上げ、澄みきった北海道の空を覗いてみた。

地上にいる時の空を見るいつもの目線で上空を見ると何も見えないが、ヘリコプター独特のローターが回っている音がする。ふと視線を下げて見ると、高さ500フィート(150m)位に確かにヘリコプターが一機、ホバリング(空中で留まる状態)していたのだ。なんでこんなところでホバリングをしているのか理解できなかったが、ヘリコプターのメインローターの下にはオールニッポンヘリコプター、そうです、あのNHKが契約しているヘリコプター会社のマークがはっきりと見えたのです。

勝手に宮井様の頭上を飛ぶとは不届き千万、ここがアフガン上空であれば行なわれているであろう、携帯型地对空ミサイル・ステインガー、いやまて、その発展型である東芝製で自衛隊が運用している91式携帯地对空誘導弾を用いて、ヘリコプター

誰が農場の上空を、 飛んで良いいったんだよ!! 誰が飛ん言

Vol.51



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

のエンジンから発せられる熱源を感じて、一発ぶちかます衝動に駆られてしまった。

しかし幸か不幸か、そのような飛び道具は持ち合わせていなかったため、私の大脳の一部に記憶されていた民法207条を思い出すことになった。

この民法207条には「土地の所有権は法令の制限内において、その土地の上下に及ぶ」とある。地

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

下は大深度地下使用法等により10m、40mなどの法律があるが、上空に関しては一応ないに等しい状態で、人工衛星が9・8m/S2を維持できる宇宙の高さまでは「おれの物だ」と言えるらしいし、現実的に考えて上空を飛ばす飛行機が個人の許可を取っていたら大変なことになるが、ヘリコプターがホバリングする操作はターゲット上空に居たいと、はつきりとした意図を私に示していると感じた。

そこで当時クラブ員として所属していたトヨタ自動車の子会社AFJ札幌（現在解散）に電話をして、CAB（航空局）に当該機のヘリコプターはどのようなフライトプランを提出しているのか確認してもらった。

確認後、NHKのK記者に電話をいれ「誰が農場の上空を飛んで良いつて、言ったんだよ」と強めの口調で伝えた。K記者は「確認してみます」と少しビビリ口調で5分後には電話があった。「なんか、旭川からの帰りで空知の風景を空撮している様ですよ」とひょうひょうと語るではないか。そのような回答をするNHKの事実をねつ造する癖はすでにお見通しである。

私は「ホー、そうなんだ、先ほど札幌のCABに確認したけどフライトプランは千歳空港の北10マイルの

長沼、ETD何分、ETA何分、高度500フィートってなっているけど?」。K記者は驚きを隠せず「み、宮井さん、なんで知っているんですか?」。私は「知らないこと以外は何でも知っているんだ! 今すぐヘリを丘珠に引き返せ! 引き返さなければ、日本で販売されていない航空機用の無線機を利用して千歳空港のTCA管制周波数127・7MHzを使い当該機を呼び出し、大事になるぞ!」と軽く脅すと、数分後にはヘリは西の札幌方面に向かっていきました。まっ、その晩の20時45分から始まるNHKの放送にはしっかりと農場の空撮風景があったNHK魂はご立派ですが……。

しかし卑しくも日本国憲法の庇護にあり、国民の権利である土地所有権を侵害された私は怒りが収まらず、と言うか、少しいじめてあげる作戦に変更することにした。

もう一度K記者に電話をいれ「どうしても空撮したいのか?」と聞く。「ミヤイさんのご協力があれば助かります」と平身低頭で来たので私は「よし、協力しようじゃないか、私がセスナ172型を1機チャーターするから、今度の7日、土曜日にカメラを持って丘珠飛行場に来ること!」。K記者は「ハイ」と二つ返事で答え、当日のフライトを待つこ

とになりました。

約束の日になりK記者はドでかいカメラを担いで一人でやってきました。フライトプラン、気象のチェックなど所定の手続きを取り、2人でセスナ172が定置されてあるランブ（定置場）に徒歩で向かいました。メディアの方たちはヘリコプターやセスナのような小型機には乗り慣れているので、彼は緊張している雰囲気もなく、「どんなアングルで撮りましょうか」などと余裕をかましていられるのも今のうちとも知らず、これから待ち受ける生きていられることを感謝出来る体験のフォアプレイを知る由もなかった。目の前のセスナ172にたどり着きオイル、ライト、燃料、操縦系などのフライト前チェックを私が行なっていると、K記者は「ミヤイさん、パイロットの方がまだ来ないのですか?」。やっとな気が付いたのかNHK。私が「ここにいないじゃないですか」と伝えると、あのドでかいカメラをコンクリート製のランブに落としそうになった時の驚きは確かにマジ顔だった。

僕は関係ありませんから

飛行中は法律の範囲内のプラスとマイナスG（重力加速度）をかけながら無事、航空自衛隊の管制下の長

沼の空撮を終え、陸上自衛隊が管制を行なう札幌・丘珠飛行場に帰着した。ところでNHKの記者は大変な仕事だ。大きな支局であればカメラマンやマイク係も同行して画像を取るのだから、岩見沢支局では自分で自分で行なわなければならない。その仕事ぶりは一人何役も行なうハ○撮り監督の様でもある。最後にはK記者のまじめな取材姿勢に感銘を受け、取材先で彼の手伝いを申し出たほどだ。

彼の「だれか生産者で、組み換えについて話してくれませんかね?」の申し出に、今までの意地悪路線を修正して知り合いの生産者を紹介した。ところが、ついこの前まで「宮井さんについて行きます!」とシオラシクしていたやつが「僕は関係ありませんから」と簡単に裏切り、ある者は「協力出来ない」と、はつきり言える保身術に長けているのは一世代で習得したものではないことは地元の方はだれでも知っているのだぞと軽く脅しておく。

農業、特に北海道農業は何か牧歌的なイメージがあるが、現実の農業は航空法のみならず、憲法を筆頭に各種関連の多種多様な法律が存在して、農産物になつていく。その現実を知らないのは案外、生産者本人なのかも知れない。